

マメ科 ネムノキ属

ネムノキ (合歡の木)

Albizia julibrissin Durazz.

自生環境

林縁、川べり など

原産地

日本在来

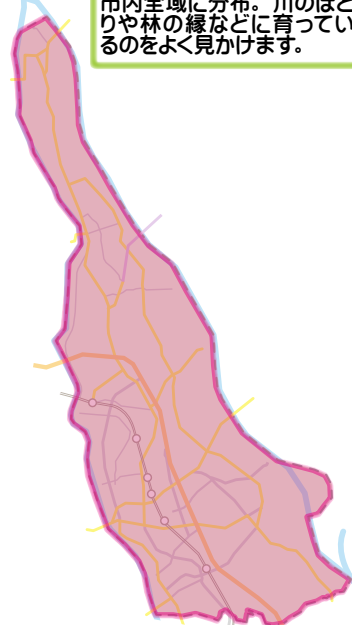
生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

市内全域にごく普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし目の敵にしすぎるのは考えもの。地域に咲く野の花として、やさしく見守る気持ちを大切にしたいところです。

市内の分布状況

市内全域に分布。川のほとりや林の縁などに育っているのをよく見かけます。



特徴

- ☆ 林の縁や河原などに生える、高さ10 m ほどの落葉高木です。伐採などでその場所の植生がまっさらになったときに、いち早く育つ「パイオニア植物」としての性質も持っています。
- ☆ 葉はまず14～24の羽片に枝分かれをします。そして1つの羽片には 30～60 枚もの小葉が左右にびっしりと並び、鳥の羽根のようになっています。ひとつの小葉は長さ1～1.5cm、幅4～6mm ほどです。葉は夜になると眠るように閉じます。
- ☆ 花期は6～7月頃です。たくさんの花が集まって、球形の花穂となります。花びらは淡黄緑色で5枚、それぞれ合着して、筒状になっています。そして多数の赤紫色の雄しべがしゅっしゅつと長くのびます。この雄しべによって、花全体が赤紫色のふわふわとした感じに見え、よく目立ちます。

夜になると葉を閉じる

ネムノキは、夜になると葉を閉じて、まるで眠っているように見えます。名前の「ネム」もそこから来ています。これは周囲の明るさ・暗さに反応して葉を開閉させる運動で、睡眠運動と呼ばれるものです。就眠運動または昼夜運動と呼ばれることもあります。ネムノキの場合、小葉のつけ根に「葉枕」という小さな膨らみがあり、その内部の圧力が変化することで、葉が開閉しています。



花は夕方から開きはじめる



果実はいわゆる豆。さやは薄く平たい

1つのさやに10～18個のタネが入る



小葉
羽片

羽片は14～24枚。1つの羽片に小葉は30～60枚

葉柄のつけ根に蜜腺がある

暗くなると葉を閉じる



やがて雄しべはしゅつとまっすぐのびる



咲きはじめる花は雄しべが縮れている

雄しべ

花びらがく



わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

